



ロゴも新しくなった看板

今の駐車場は旧建物があつた場所。入れ替える形で新築した

歯科医院の建て替えを機に 衛生環境の区分けを徹底。 さらなる医療の 充実を目指す

三重県名張市にある「桔梗が丘大門歯科医院」は2023年4月、
歯科医院を建て直した。気持ちも新たに、さらなる充実した
歯科医療の提供に取り組む意気込みを伺った。



医療法人育人会 桔梗が丘大門歯科医院
理事長 大門 弘治 先生

理事長就任を機に 2度目の建て替えを決意

「桔梗が丘大門歯科医院」があるのは、近鉄大阪線・桔梗が丘駅から徒歩2分の交差点に面した角地。2023年4月に新しく建てられた黒とグレーの瀟洒な建物は、遠くからもよく目立つ。2階建てだが、外観は3階建てのような迫力のあるデザインだ。

開業は1979年。大門弘治理事長の父、大門祥司先生が初代院長である。大門理事長が父親のもとで働き始めたのは2000年のこと。以来、親子で診療してきたが、2022年3月に祥司先生が引退。大門理事長がすべてを率いる診療体制になったことを機に、建物を一新した。

今回の建て替えは、2度目になる。最初の建て替えは大門理事長が父と一緒に働くことになったときだ。「1度目は、親子で働くにあたり、入り口や治療スペースを分けたほうが、お互いにスムーズに診療ができると考えての建て替えでした。父の引退が決まったとき、建物は十分に使える状態でしたが、二つの理由から2度目の建て替えを決意しました」

理由の一つは、大門理事長に健康の不安を覚えるできごとがあったことだ。健康診断で好ましくない結果が出

た。その後の再検査で問題がないことがわかり、ほっとしたが、これからの仕事人生を考えるきっかけになった。

もう一つの理由は、職場環境の改善だ。以前の建物は改築を繰り返していたため、使い勝手が悪かった。また、スタッフルームなど、職場環境の改善も必要だった。「残りの歯科医師人生を考えたとき、スタッフと共に気持ちよく、楽しく働ける職場環境が欲しいと思いました。また、歯科経営を考えると、スタッフの力は不可欠な存在です。職場環境の改善は、理事長としての責務でした。さらに、より快適な院内にすることで、コロナ禍の経営的に苦しい時期に、当院の感染対策を信じて支えてくれた患者さんへの恩返しになるという気持ちもありました」

診療を続けながら、約10カ月かけ、新しい建物は駐車場を活用する形で完成した。建物の周囲には、「歯科医師にならなければ、建築家を目指したかった」と話す大門理事長がこだわったさまざまな植物が緑豊かに育ちつつある。

予防と治療のゾーンを 徹底して分けた設計に

新しい建物は、1階が待合室や診療室、歯科技工室の
治療スペース、2階がセミナールーム、スタッフルームな